



生育が非常に早いので 遅れないように作業準備を！

【指導員】 園芸果樹課 大和屋 尚享

今年度は、平年以上の気温で推移していることから、生育が非常に早まっています。今後行っていたきたい作業を挙げますので、計画的に作業を進め、高品質生産に努めましょう。

◆園地の土壌改良

管内の果樹園では、土壌の酸性化が進んでいる傾向にあります。酸性化が進むと生育不良へとつながり、品質低下を引き起こします。

樹種により生育に適正なpH（土壌の酸性やアルカリ性を示す指針）が異なりますので、土壌分析を実施した上で、適正な土壌状態にしましょう。

| 樹種別好適pH | |
|---------|---------|
| りんご | 5.0～6.0 |
| ぶどう | 5.0～7.0 |
| もも | 5.0～6.0 |
| おうとう | 5.0～6.0 |

◆定植後の苗木管理

苗木の管理で最も重要なポイントは灌水です。定植後の

苗木は新梢が伸長し、水分を求めて根を伸ばします。土壌の乾燥は苗木の生育に大きな影響を与えますので、園地状況を確認しながら適宜灌水を行い（1本あたり10～20リットル）、苗木の生育を助けましょう。

◆人工授粉の実施

訪花昆虫のみに頼った授粉環境では、天候に影響を受け



手作業による人工授粉

やすいというデメリットがあります。人工授粉の実施で、確実な結実量の確保と大玉生産に努めましょう。

花粉精製のための開約施設を設置している選果場（栄、醍醐、金麓園、増田）をぜひご利用ください。開約施設の使用手順も備え付けてありますので、初めての方も簡単に使用出来るようになっていきます。開花直前のバルーン状の花が、花粉をとるには最も適しています。なるべく乾いた状態で持つてくるようにしてください。消雪の関係から下枝の開花は上枝よりやや遅れ



開約施設を利用している様子

ますが、開花の遅れた下枝だけに人工授粉を実施するだけでも全体の秀品率が大きく向上します。



バルーン状の花

◆りんご早期摘果の実施

大玉生産と翌年の良質な花芽形成を促すために、満開後30日をめどに荒摘果を終了し、早期に適正な着果量となるように作業を進めましょう。作業が遅れる場合、摘果剤を活用し適期に摘果作業を実施しましょう。



授粉可能な期間は短く、大変な手間と労力がかかりますが、効果は絶大ですので、できる範囲で行いましょう。